

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000521
法人名	特定非営利活動法人 こすもすの里
事業所名	グループホーム こすもす
所在地	宮崎県児湯郡木城町大字椎木4007-2
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年7月25日

## 【情報提供票より】(平成20年7月3日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱 6,000 円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(7月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 67 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木城クリニック 高城歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周りに田園が広がり正面には住宅街と、立地条件には恵まれた一画に位置している。「利用者の自立支援を目指し、安心と安全の介護・地域福祉に貢献」をホームの理念とし、笑顔と前向きな姿勢を大切にされたケアを目標としている。職員と利用者は、共に過ごす家族のように、生活の中で出来ることを行い支えあう関係が出来ているので、利用者は生きいきとして利用者が主体の生活となっている。地域行事である「文化祭」や「ふるさとまつり」に参加し、社会的参加の機会や利用者の活躍する場面を作っている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年までは、代表者・管理者レベルの研修が多くみられたが、今年度は、職員の研修が積極的に取り入れ研修の機会が増えている。外部評価を基にした改善への取り組みとして、出来る項目の改善は取り組んでいる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の一連の過程・評価の意義について、全職員が理解している。自己評価は全職員が取り組み、その後職員間で検討を行いつついる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を3か月に1回開催し、利用者の状態やホームの行事の報告を行っている。地域にグループホームを理解してもらい、地域の協力を得るため情報交換している。役場の栄養士による、献立内容の助言やホーム内での調理講習などを受け、職員の教育にも繋がっている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 3か月毎に、利用者が家族に宛てた手紙を発送し、継続した関係づくりに努めている。家族会は開催していないが、運営推進会議に参加してもらい、家族の意見を引き出す努力をしている。家族との関係を良くし、意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町が開催するふるさと祭りや社協主催の運動会などには、職員・利用者と共に参加する機会がある。ボランティアや小学生との交流を利用者は楽しみにしている。広報活動や運営推進会議での協力を得て、さらに地域との交流を深めてほしい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の自立支援を目指し、安心と安全の介護・地域福祉に貢献」をホームの理念とし、笑顔と前向きな姿勢を大切にしたケアを目標にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回の職員会議時に職員に伝え共有化を図ったり、ケアの実践を通して理念を具体化している。理念である「地域福祉に貢献」に対し、地元の方との交流が積極的でないため、特に取り組んでいきたいと感じている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町が開催するふるさと祭りや社協主催の運動会などには、職員・利用者と共に参加する機会がある。ボランティアや小学生との交流や、毎年、ホームが主催しての夕涼み会に参加を呼びかけ、地元の方との交流は少しずつすすんでいる。自治会の加入に対しては、現在検討中である。	○	代表者をはじめ職員が地域に対しての交流を進めたいという思いがある。是非、運営推進会議や自治会に協力を求め、一歩踏み出してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の過程・評価の意義について、全職員が理解している。自己評価は全職員が取り組み、その後職員間で検討を行っている。外部評価を元にした改善への取り組みとして、全ての項目の改善は難しいが、出来る項目の改善は取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3か月に1回開催し、利用者の状態やホームの行事の報告を行っている。地域にグループホームを理解してもらい、地域の協力を得るため、情報交換している。役場職員から、介護保険関係の説明もあり、参加している家族の安心にもつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当職員が運営推進会議に参加する以外に、ホームの現状や課題を報告し協力を求めている。役場の栄養士を派遣してもらい、献立内容の助言やホーム内での調理講習など行い、職員の教育にも繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に数回「ホーム便り」を発行し、利用者の生きいきしている表情の写真や暮らしぶりを載せ、家族伝えている。3か月毎に、利用者が家族に宛てた手紙を発送し、継続した関係づくりに努めている。健康状態に関しては、常に家族と連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会としては発足しているが、十分に機能していない。しかし、運営推進会議に参加してもらい、家族の意見を引き出す努力をしている。意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。		家族会を再開し、家族間同士の交流や職員との交流を行い、意見や情報、協力が得られる関係づくりにさらに努めてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者や同法人ホームの異動はほとんどなく、馴染みの職員が継続的に支援している。新しい職員が入る場合は、必ずなれた職員がしばらくは添い、利用者の混乱を最小限に留める配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年までは、代表者・管理者レベルの研修が多くみられたが、今年度は、職員の研修が積極的に取り入れられている。様々な研修の案内もされ、職員自ら研修参加への希望が出せる様なシステムになっている。研修後は復命書の記入をし、毎月の定例会で復命している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し参加し情報交換している。北中央ブロック(西都・児湯地区)のグループホームの意見交換会を企画し、ネットワークづくりや同地区の質の向上に繋がりたいと期待している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている利用者・家族に対しては、見学をしてもらっている。入所されたばかりの利用者に対しては、安心してサービスが得られるよう、声かけなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶことを心にかけている。常に、利用者の表情や会話の内容、しぐさを観察しケアに繋げるように心にかけている。	職員は、利用者の笑顔や生きいきとした姿を大切に、利用者と共に喜ぶことを心にかけている。常に、利用者の表情や会話の内容、しぐさを観察しケアに繋げるように心にかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がゆっくりしている時間や調子の良い時を見計らって話し、その中から思いや意向を汲み取っている。利用者の思いの把握が困難な場合は、家族や利用者から聞き取った生活歴を元に、さらに職員間で検討し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の要望を取り入れ、職員全体で検討し作成している。介護計画を作成する際、「利用者のおもいを入れ込んだ内容」になるよう心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現段階では、毎月職員会議で見直しを行い、3か月ごとに介護計画作成を行っている。毎月の見直しは、職員の質の向上や介護計画の共有を目的に、利用者ごとの担当者が主になって行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の暮らしが安心して継続ができるように、利用者・家族の状況に応じ、通院、特別な外出等対応している。個々の希望に応じ、墓参りや遠方のドライブに行き、日常生活の中で刺激が得られるような機会を作っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じたかかりつけ医から協力を頂いている。通院支援する場合は、日常生活が把握できる情報提供書を提出し、家族・ホーム・病院の連携が図れるようにしている。又協力病院との往診体制も整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みとしては、実施していきたいとの思いはある。しかし、終末期に向けた体制として、職員体制や医師との連携、看護師の配置など、その時々に応じた体制は整っていない。他事業所から情報を取り、職員と検討する予定である。	○	職員間で終末期に向けての不安材料や意見を収集し、看取りをしているホームからの情報を取り入れ、ターミナルケアの勉強会を取り入れ、全職員が同じ思いで取り組めるようにしてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の定例会では、利用者に対しての言葉かけや接遇に関する教育を代表者が行い、全職員で話し合っている。利用者とは会話する場面では、職員は必ず利用者の目線と同じ位置に姿勢を落としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを崩すことなく、その方の体調や希望に沿いながら支援している。利用者との会話の中から得られたその人らしさを基本にし、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に、毎日の買い物や調理、食事の準備や後片付けと一連の過程を楽しめるように工夫している。食事は利用者と一緒にテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回は入浴が出来るようになっている。毎日入浴の準備はしてあり、希望があれば毎日入浴も可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや洗濯物干し、調理や食事の準備や後片付け、庭の草とりなど利用者の役割が準備されている。毎月ボランティアが訪問しての読み聞かせや小学生との交流も楽しみの一つである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏の暑い時期を除いての毎日の散歩や個々の希望に応じての毎月の墓参り、毎日の買い物と外出できる機会を多く作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はかけておらず、自由に入出入りが出来る状態である。帰宅願望のある方がおり、常に外出され職員が付き添う対応をしていた。しかし、近隣住民の「利用者の安全」を指摘され現在は門扉を閉じている。職員としては、鍵は掛けていないものの、以前より行動範囲を制限しているのではないかとのおもいはあり、		地域住民に対しホームのおもいや認知症への理解を求め、折り合いをつけながら、地域に根ざしてほしい。利用者の安全確保と鍵を掛けることの弊害を職員が理解したうえで、門扉を閉め利用者の行動範囲を狭めることを職員で話あっている。引き続き検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年の避難訓練は実施している。しかし、地区の方を巻き込んだ避難支援体制や警察署や消防団との連携はまだ取れていない。地区の消防団との連携を今年度は図り、避難体制の構築を図りたいというおもいが聞かれた。	○	地域住民や地区の消防団との連携を図り、災害等に向けての協力体制を作り上げてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量についても把握しており、状態の変化に対応できるようにしている。役場の栄養士を派遣してもらい、献立内容の助言やホーム内での調理実習も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファなどを利用し入居者が思いおもいの場所で語らいをされ居心地の良さを感じた。また、床の間に神棚がおかれ、利用者が毎日水を交換し、生活感を取り入れている。入居者が作成した装飾品が違和感なく展示されており、落ち着いた雰囲気を感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の思い出の写真や小学生が訪問した際に書いた似顔絵が飾られている。家族からの持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。		